（別紙４）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成20年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1298900042
法人名	社会福祉法人　福祉楽団
事業所名	グループホーム　杜の家
所在地	〒287-0102千葉県香取市岩部869番60 （電　話）0478-70-5665

評価機関名	特定非営利活動法人ACOBA		
所在地	〒270-1151千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成20年12月16日

【情報提供票より】（平成20年11月21日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　19年　10月　1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	11 人	常勤　5人，　非常勤　6人，　常勤換算　9.8人

（２）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	2 階建ての　2 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	59,100　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	430　円	昼食	600　円
	夕食	600　円	おやつ	50　円
	または1日当たり　円			

（４）利用者の概要（　11月　2日現在　）

利用者人数		18 名	男性	7 名	女性　11 名
要介護１		1	要介護２	7	
要介護３		7	要介護４	3	
要介護５		0	要支援２	0	
年齢	平均	75.4 歳	最低	72 歳	最高　94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	本多病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは佐原駅より車で20分ほどの閑静な立地にある。『ひとりひとりに向き合う。人人の安心をつくる』が事業所のミッションであり、お客様への思い・社会への思い・職員への思いとして各々３つの理念を持っている。地域で大規模な養豚場を営む理事長のもと、理念の実践を行っている。運営上の特徴は　①科学的理論に基いた介護への取組み　②意欲溢れる若き施設長を中心として、それぞれの裁量に任せたサービスの実行　③充実した研修プログラム・人事考課・業績評価・福利厚生　④全ての情報の公開、である。ビジネスマナーは全職員にいきわたっており、明るい挨拶は気持ちがいい。今後の労務対策として、外国人採用への取組みなども注目に値する。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	初めての評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	開設1年のグループホームであり、初めての評価を受けるに当り、施設長を中心として各リーダーが話し合いを行った。記入はそれぞれリーダーが責任分野を担当した。自己満足に繋がりやすい[良いこと]よりも、[改善点]に重点をおいて自己評価することとした。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は9月に第1回を開催した。入居者3名、民生委員、婦人会会長、赤十字奉仕団長、市職員、施設職員など10名である。テーマは施設における活動報告、日常の報告と課題、自己評価の報告、その他など多岐に亘る。会議で討議された内容は直ちに施設の運営に活かすようにしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	当グループホームは、苦情処理の規定に沿って苦情・相談に関るデータの情報公開や利用者・家族への近況報告、電話での連絡などを行っている。しかし、家族はそれ以上にお願いしたいことや暮らしぶりの細かい報告など聞きたいことが色々あるようだ。開設して既に1年が経過しており、利用者・家族の真意を1つ1つ検証し、具体的にその解決策はなにかを探り、サービスの質の向上に取組むことを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	香取市認知症メモリーウォークや地域の草刈に職員が参加するなどしている。又、夏祭り、運動会、子供たちとの交流、ボランティア活動等を通じた地域交流がある。しかし、ホームは開設1年で内部固めで忙しく、地域との交流は未だこれからとの自覚がある。出来るだけ早く体制を整え、外部へ積極的に出て行くという計画を持っている。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『ひとりひとりに向き合う。人人の安心をつくる』というミッションのもと、お客様への思いとして３つ・社会への思いとして3つ・職員への思いとして３つの理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職員の研修時に1時間かけて理念の共有を図るとともに、理念や仕事の基本、マナーと心得など、全職員必須の項目で出来ている冊子「INTRODUCTION」を配布している。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	香取市認知症メモリーウォークに参加したり、地域の草刈に職員が参加するなどしている。又、夏祭り、運動会、子供たちとの交流等地域と関わっている。しかし、ホームは開設1年で内部固めでいっぱいの状態であり、地域との交流は不十分との自覚がある。	○	施設は閑静な場所にあり、近隣に人家が少なく孤立しがちな立地にある。あらゆる機会を通じ、地域の人々と顔を合わせ、その存在を認識してもらうことは、施設の将来にも繋がることでもあり、地域との付き合いへのより一層の努力に期待したい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価受審にあたり、自己満足にならないよう、良いことよりも改善点を自己評価し、第三者に評価を受けるようにした。記入に当っては、それぞれの立場から責任者が担当した。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は9月に第1回を開催した。メンバーは入居者、民生委員、婦人会、赤十字奉仕団、市職員、施設職員など10人ほどの構成である。今回は全体での会議であったが、今後はユニットごとに年2回の開催を計画している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会があり、市の担当課、他のグループホーム管理者等とサービスの質の向上のための意見交換などを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は家族に2ヶ月に一度近況報告しているが、殆どの方は毎月1回以上の面会があるため、来所時に報告をするようにしている。体調不調時や服薬等変更時、回復後の報告は随時行なっている。また面会が1ヶ月以上無い場合も、職員が電話で対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の発言や様子から意見や要望がくみ取れた場合は、日常の援助記録に残し苦情解決規定にそって相談、回答をしている。全ての苦情やご意見は事業報告書データで公表する仕組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年、入居者増加に伴い職員も増員した。前半は離職者もいたりして異動があったが、その場合はリーダーがフォローに入り、利用者と馴染みの形を保持するように努めた。新人職員入社時には、原則3～4日間OJT研修を行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修制度はコンピテンシーを鍛える、スキルを鍛える、職場内OFF-JTなどのプログラムが揃っており、外部機関の活用も含め、その内容は充実している。正職員は業績評価・360度評価があり、メイト職員には5段階の評価があるなど、給与システム・人事考課制度は整っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香取市グループホーム連絡会があり、年に3、4回実施している。市内のグループホーム管理者が集い、相互に情報・意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の多くは法人のデイサービスやショートステイを利用し、法人に十分馴染んでから入居しており、事前にグループホームを見学をしてから契約している。また入居後も馴染みのデイサービスに出かけている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として対応しており、昔の話を聞いたり利用者からの感謝の言葉を励みとしている。戸外に出かけたいという利用者の思いに共感し、人手不足の中ではあるが、利用者の希望にそってできる限り支援するよう図っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人独自KOMI理論にそったアセスメントを実施し、詳細に情報を収集し課題を分析している。今は十分ではないが、今後は一人ひとりの希望や意向に合わせた援助をしたいと考えている。	○	入居時のアセスメント内容や利用者の課題等詳細に記録されているが、入居後の利用者や家族から直接希望や意向の把握が不十分である。さらに利用者ごとに向き合い、利用者本位に検討するよう努めてほしい。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	各利用者に担当職員がマンツーマンでKOMI理論に基づく介護計画の原案を作成し，ユニット毎に月２回程度担当者会議を開催している。しかし介護計画書について利用者、家族への説明はされておらず、同意を取っていない。	○	職員は一人ひとりの利用者を詳しく観察しチームで利用者本位の計画書を作成しようと努めているが、利用者家族への説明と同意がとられておらず、早急な改善を行なってほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ユニット毎の会議でモニタリングを行い利用者の変化に応じてケア方針の見直しを行なっているが、評価や介護計画の見直しは計画的には行なわれていない。	○	介護計画の見直しは計画的に及び利用者の変化に応じて随時に実施してほしい。また見直し時には利用者家族への説明と同意を行なってほしい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当グループホームは総合福祉施設の中にあり、特養ホームのコミュニティホールや特殊浴やデイサービスへの参加など総合施設の多機能性を活用している		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の内3名ほどかかりつけ医の受診を支援している。提携医の受診時は看護師が立会い、受診記録と共に必要に応じて家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時終末期についての利用者、家族の意向調査はしていないが、ターミナル指針をもとに同意書の書式が用意されている。法人として看取りについて積極的に取り組むことを文書で明文化している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に挨拶や敬語で話をすることを徹底している。職員の入社時にはマニュアルをもとにプライバシー研修が実施されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は当座の人員不足から利用者の希望にそった支援が十分に行なえていないと自覚しており、利用者と共に外出や利用者の趣味や楽しみを十分支援できるよう望んでいる。	○	ケア方針の職員への徹底は重要であるが、まずは利用者がその日一日を笑顔で過ごせる楽しみ事を、一日にひとつ実現することを目指してほしい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人の厨房で調理され、ユニットでは味噌汁程度の調理を行なっている。地産地消の新鮮な食材を使っての食事が特色となっている。おやつを利用者と作ったり、居酒屋メニューでお酒を飲んだり、ユニット合同の食事会、外食など行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回、時間を決めて行っている。当日入浴したくない利用者には翌日に支援している。必要な利用者には特殊浴で行なっている。	○	入浴は回数、時間を決めて行なわれているが、総合施設の多機能性を活かすなど、利用者がさらに入浴を楽しめる支援を検討してほしい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力にあわせ、食事後の片付けや草取りなど行なっている。畑仕事が好きな利用者に対しては、今後環境を整備したいと考えている。	○	法人内の広い敷地や特養、デイサービス等の多機能性を利用し、利用者の楽しみ事や気晴らしの支援につなげてほしい。また利用者のできることを役割として活用してほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により戸外で草取りや散歩、近所への買い物等支援している。人員不足の為、十分行われていないと職員は考えている。	○	職員は利用者の様子からわずかな時間でも外出したいと考えており、限られた人員の中で外出につなげる工夫を継続してほしい。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの入り口は24時間開放し、玄関は日中開錠している。居室の入り口は本人の希望のない限り鍵はかけない。居室からテラスに出る戸には安全の為、換気用ストッパーが掛けられている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て利用者全員参加で年2回、日中、夜間、地震、火災想定で避難訓練を実施している。利用者の居室は2階にあり、外への避難は非常階段があるのみであるが非常階段を使っての訓練は実施されていない。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については平均1500ｋcalで摂取されている。嚥下しにくい利用者にはムース状、アイソトニック飲料にするなど食形態を工夫している。お茶やコーヒーなど利用者の嗜好に合わせて選択してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室と居間とは行ったり来たりしやすい距離にあり、台所を中心に利用者が活動しやすいよう居室が配置されている。採光に留意されており明るい雰囲気である。ユニット入り口のドアのチャイムや浴室のチャイムなど職員は利用者にとって音が不快に感じているのではないかと案じている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は明るく、日当たりがよい。どの部屋からもテラスに出られるようになっているが、安全の為戸に換気用ストッパーを掛けている。馴染みの家具を使ったり室内を装飾するなど居心地のよい工夫がされている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。